



全国整備工場の皆様へNGP組合員200拠点がお届けするお役立ち情報

## 乗用車の平均車齢が8年台に突入 乗用車、貨物車ともに 平均車齢が最高齢を更新

自動車検査登録情報協会(自検協)は、2013年末における自動車の保有台数や平均車齢、平均使用年数などの統計をまとめた「平成25年版 わが国の自動車保有動向」を発行しました。それによると、平均車齢・平均使用年数ともに延びており、アフターメンテナンスの重要性はさらに増してきています。

統計によると、2013年3月末における自動車保有台数は79,625,203台(対前年比100.7%)と前年より512,619台多くなりました。乗用車では、登録車が前年より134,091台減、軽自動車は761,971台増で、軽自動車が増加のけん引役を担っている状況が顕著に現れています。

ハイブリッド車(HV)と電気自動車(EV)の保有台数は年々増加を続けています。HVは前年より836,309台多い2,869,102台(対前年比141.1%)、EVでは11,737台多い25,336台(同186.3%)となりました。

乗用車の平均車齢は前年より0.12年延びた8.07年となり、統計開始以降初めて8年を超えました。車種別では普通乗用車の平均車齢が前年より0.07年長い7.79年となりました。普通乗用車は2010年のスクラップインセンティブが影響して一時的な若返りも見られましたが、その後3年連続で最高齢を更新しています。一方小型乗用車は21年連続して最高齢を更新、0.16年延びて8.28

年となっています。

貨物車の平均車齢は前年より0.3年延びて10.73年となりました。車種別では普通貨物車が前年より0.32年延びて11.52年、小型貨物車は0.28年延びて10.24年と初めて10年を超えています。

平均使用年数では、乗用車が3年ぶりに長期化して12.58年となっています。車種別では普通乗用車が12.99年と前年に比べ0.43年長期化、小型乗用車は12.32年で0.41年長期化しています。

貨物車の平均使用年数は2年ぶりに増加して13.24年(対前年比0.43年増)となりました。普通貨物車は前年より0.65年長い15.65年、小型貨物車は0.36年長い12.39年となっています。

平均使用年数の長期化について自検協では、廃車を伴う新車購入へのエコカー補助金や東日本大震災など、ここ2年間の短期化要因が薄れたため、とみています。

低年式車のカーオーナーは、整備費用にあ

車種別の自動車保有台数 (台)

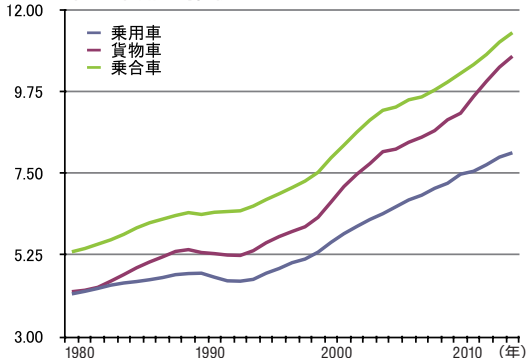
用途	車種	2013年3月末	前年	増減数
乗用	普通車	17,297,023	17,098,065	198,958
	小型車	22,712,327	23,045,376	-333,049
	軽自動車	19,347,873	18,585,902	761,971
	乗用計	59,357,223	58,729,343	627,880
貨物	普通車	2,262,592	2,263,507	-915
	小型車	3,649,661	3,717,791	-68,130
	被けん引車	155,885	154,615	1,270
	軽自動車	8,783,528	8,872,908	-89,380
	貨物計	14,851,666	15,008,821	-157,155
乗合	普通車	107,536	107,698	-162
	小型車	118,511	118,572	-61
	乗合計	226,047	226,270	-223
特種(殊)用途	普通車	1,027,072	1,022,688	4,384
	小型車	147,825	148,883	-1,058
	軽自動車	153,386	150,318	3,068
	大型特殊車	326,456	323,560	2,896
	特種(殊)用途計	1,654,739	1,645,449	9,290
二輪	小型二輪車	1,566,341	1,542,856	23,485
	軽二輪車	1,969,187	1,959,845	9,342
	二輪計	3,535,528	3,502,701	32,827
総計		79,625,203	79,112,584	512,619

まり金額をかけない傾向にあるようですが低年式車だからこそ不具合が発生する部位も数多くあります。

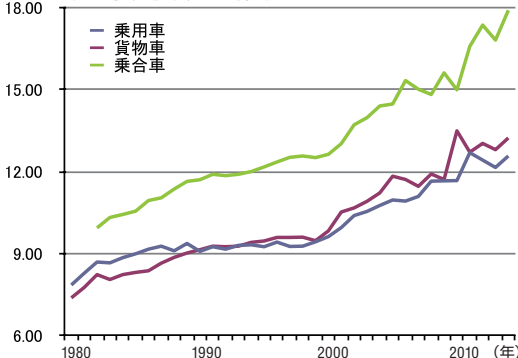
低年式車のリサイクル部品はストックも豊富なケースが多く、低価格な整備・修理を求める顧客に対しては、特に有効な提案となります。また定期点検や整備の必要性をしっかりと説明して顧客の意識を高めることは、会社の売上アップだけではなく、工場への信頼感や顧客満足度の向上も期待できます。

その一助となる「クルマ直しの、新しい選択」NGPエコひろばホームページへの工場登録などにつきましては、最寄りのNGP組合員にぜひご相談下さい。

平均車齢の推移



平均使用年数の推移



## 第43回東京モーターショー2013開催

FCVと自動運転技術の実用化は目前  
CFRPや交換が容易な樹脂ボディの普及も

11月22日から12月1日までの10日間、第43回東京モーターショー2013が東京・有明の東京ビッグサイトで開催されました。12カ国から178社181ブランドが出展し、ワールドプレミア76台、ジャパンプレミア81台、その他を合わせて計426台もの車両が展示され、総来場者数は前回より60,200人多い902,800人に達しました。

その中でひとつの傾向として挙げられるのは、水素と酸素を化学反応させて電気を作る燃料電池を動力源とするFCV（燃料電池車）や、自動運転システムを搭載した車両など、数年前までは遠い未来のものとして扱われていた最先端の技術が、実用化を目前に控えた現実的な姿で紹介されていたということです。

トヨタの「FCVコンセプト」は、専用設計のセダン型ボディに、従来型車両の約2倍に相当する3kW/ℓの出力密度を持つ燃料電池をフロア中央、70MPa高圧水素タンクを後席および荷室の床下に計2本（従来型は計4本）搭載することで、居住性を大幅に改善したとしています。

この「FCVコンセプト」については、極めて現実的な設計の骨格と、前ストラット／後トーションビーム式のサスペンションを持

つベアシャーシも展示されており、同車をベースとしたFCVを2015年に市販開始するというトヨタの目標が、決して夢物語ではないことを予感させました。

自動運転技術については、今回の東京モーターショーと連携する形で10月に開催された「CEATEC JAPAN 2013」、「ITS世界会議 東京2013」に続き、日産リーフなどの実証実験車両が展示や走行デモをおこない、大きな注目を集めていました。

この技術については、2020年の市販化を目標に実証実験が進められていますが、その車両に搭載されているセンサー類は、カメラやレーザースキャナー、ミリ波レーダーなど、すでに実用化されているものばかりです。制御プログラムの進化による交通状況の判断能力向上、そして法規制の改正が進めば、手に届きやすい価格で販売され、急速に普及が進むものと思われれます。

車体の分野においても、注目すべき技術を採用したコンセプトカーや新型車が展示され、多くの来場者が熱心に細部まで確認していました。

BMWが新ブランド「i」の第一弾として11月13日に市販モデルを発表した、小型4

人乗りEV「i3」とプレミアムスポーツPHV「i8」は、いずれも上部のキャabinをCFRP（炭素繊維強化プラスチック）、下部のシャーシをアルミ合金製とすることで、駆動用バッテリーによる重量増を相殺しつつ、50km/h以下での事故ならばキャabinの修正が必要ないほど強固な骨格を形成しています。さらに外板には自己復元性の高い樹脂を使用して、軽度の凹みによる修理を不要としました。

ダイハツが来年春の市販化を計画している、次世代軽自動車オープンカーのコンセプトモデル「コペン」は、専用工具さえあれば軽量の樹脂製の外板を全て簡単に脱着できるよう、ボディ骨格に工夫が施されています。

これら技術が他の量販車種にも幅広く展開されれば、特に軽度の損傷時における車体修理のあり方が根底から変わらざるでしょう。

技術革新は、近年のハイブリッド車や予防安全技術、超高張力鋼板などの新技術がそうであるように、緩やかにではなく急激に訪れる可能性があります。それがいつであっても問題ないよう備えるという意味でも、自動車整備・修理工場にはいま、最先端の一手前である新技術への対応が求められているといえそうです。



トヨタ FCV コンセプト



日産リーフの自動運転システム搭載車



BMW i3



ダイハツ・コペン

## リターナブル梱包材使用回数が10万回を突破

# 廃棄段ボール削減と作業時間短縮、 運送コスト削減に大きく貢献



第三弾として2013年5月に投入されたエンジン用リターナブル梱包材。そのほかドア用・フェンダー用、バンパー用がある

NGP協同組合では、2009年4月より第一弾として、ドア用・フェンダー用のリターナブル梱包材による輸送、運用を開始しました。その後2011年2月に第二弾のバンパー用、2013年5月に第三弾となるエンジン用のリターナブル梱包材を運用して参りましたが、このほど通算の使用回数が10万回を突破いたしました。

梱包資材のリターナブル化は、不特定かつ不定時な物流が多いリサイクル部品業界にお

いて課題が多く、定着を危惧する声もありましたが、第二弾、第三弾を投入するにつれ徐々にご理解いただき利用回数が増え、今回の10万回突破に至りました。

これにより削減された各コストの実績は、以下の通りとなっております。

- ①廃棄段ボールの削減量 **441,000kg**
- ②環境負荷低減 (CO<sub>2</sub>削減) **535t-CO<sub>2</sub>**
- ③作業時間の短縮 **9,672時間**
- ④資材費、運賃コストの削減 **1,548万4千円**

本年からは、同業他グループとの物流情報交換会（ロジスティクス研究会）において、事例報告など共同取り組みの可能性を模索しつつ、将来の業界標準化へと拡げていきたいと考えております。

引き続き、整備工場の皆様には商品到着後の折畳み作業や一時保管など手間を取らせることとなりますが、この取り組みに対するご理解を願っております。

## 廃車買取サイト「廃車王くるマック」を「廃車王」へリニューアル

# カーオーナーからの部品取り車両仕入れを 拡大し部品生産力を強化して参ります

近年、部品取り車両の確保は輸出車両の増加・仕入れ価格高騰に加え、大手解体事業者への廃車集中化が進むことで、ますます困難となっております。

NGPの前年度実績は、リサイクル部品生産金額が対前年比94.0%の142億2,331万6,000円と落ち込み、それに伴いリサイクル部品販売金額は、拡大を目指したものの同101.4%の461億8,385万8,000円に留まりました。

そこで、一般カーオーナーからの部品取り車両仕入れ拡大を図るため、従来からの「廃車王くるマック」を「廃車王」へとリニューアルし、部品取り車両の拡大に取り組みます。

12月にオープンした「廃車王」の新たなWebサイトには、お客様視点でのサービスを備えることで、カーオーナーがより適正な価格で部品取り車両を売却できるよう努めています。

NGP組合員が運営する「廃車王」各店舗の名称も、例えば「廃車王くるマック広島南店」としていたものを、「廃車王のエビス」とすることで、冠は「廃車王」にしなが、個々の組合員会社を地域で知っていただけるようにします。

さらに、12月12～14日に東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ2013」出展ブースでの告知を皮切りに、来年2月からは全国ラジオCMを開始するなど、新たなロゴ・キャラクターとともに、「廃車王」の広報・宣伝活動を大規模に展開して参ります。

NGP協同組合の胡定晃・総務広報委員長は「自動車保険の等級制度改定や低年式車両の増加などでリサイクル部品の需要が高まっている中、仕入れ価格の高騰により生産力が低下していることには、強い危機感を抱いております。

新たな『廃車王』を通じ、より適正な価格



新デザインのロゴとキャラクターで「廃車王」とNGPを明確にアピールした、Webサイトのトップ画面イメージ  
胡定晃・総務広報委員長

で部品取り車両を仕入れ、部品生産力を強化することで、リサイクル部品をより安価にご提供し、整備工場の皆様がカーオーナーへのニーズに幅広く応えられる体制をバックアップしていきたいと思っております」と、その狙いを述べています。

## NGP 今月のCO<sub>2</sub>削減量



リサイクル部品利用に伴う削減効果

※NGPをはじめとしたリサイクル部品販売事業12団体は、グリーンポイントクラブを作り、リユース部品、リビルト部品を利用することで達成できたCO<sub>2</sub>削減量を利用者の皆様にお知らせしています。ご協力ありがとうございます。

NGP 平成25年10月: **6,801t**      NGP 1月からの累計: **66,029t** (全12団体 1月からの累計 **118,554t**)



リターナブル梱包材利用に伴う削減効果

※リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO<sub>2</sub>排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用することを前提に削減効果を試算しました。

NGP 平成25年10月: **23.8t**      NGP 1月からの累計: **241.1t**

## 第24回基礎研修会開催

# みんなの心をひとつに“合わせる” NGPの絆を体得

11月11～14日の4日間、BumB（ぶんぶ）東京スポーツ文化館（東京都江東区）で、NGP協同組合の第24回基礎研修会が開催されました。今回も受講料を組合負担としたことで、NGP組合員各社から総計100人の新入社員たちが集まりました。

この研修会は、初日の受付から指導が始まっています。講師は目を光らせ、受講生一人ひとりの服装から言葉遣い、挨拶の仕方まで厳しく指摘し、社会人としての礼儀作法を徹底的に叩き込みます。

開会式に駆けつけた山田彰副理事長は、「たとえ才能のある人でも、周りの人たちの助けがなければ、その能力を十分に発揮することはできません。この基礎研修会で周りの人たちに“合わせる”ことを学び、胸を張って堂々と個々の会社に戻れることを期待しています」と、受講生を激励しました。

その後受講生は6つの班に分かれ、挨拶および集団行動の整列、ラジオ体操の声出し・スピード、整列位置やタイミングを各班の全員が全力を出し切った上で完璧に揃えることを求められます。またNGP三大信条やお客様第一10ヶ条など、一言一句違わずに暗記しなければなりません。

それが達成されるまでは、たとえ何時間かかるろうとも、決して合格とはならず、連帯責任の「NGPの絆」を体得するまで続けられます。今回は一部の班で、4日目の修了式直前まで試験が延長されましたが、最終的には全員が合格できました。

修了式で挨拶した長谷川利彦理事長は、「皆さんはこれでようやくスタートラインに立ちましたが、今後はトータルの売上だけでなく、一つひとつの仕事をいかに効率よく進めるかが大事になります。ここで学んだ基本を大事にして頑張ってください」と、受講生に帰社後の心構えを語られました。

(株)ユアアンドアイの泰道瑠美さんは「言動を合わせること、心をひとつにすることが本当に難しく、それが最後になって、どういふことなのかがよくわかってきた気がしました。これを日々の仕事に置き換えると、同じ品質になっていくということだと思いました」と、“合わせる”ことの意義を実感していました。

そして、「あなたの倉庫は私の倉庫、私の倉庫はあなたの倉庫であることを再認識し、どこへ出しても恥ずかしくない商品を生産する会社にします」((株)茨城オートパーツセ



開会式で受講生を激励する山田副理事長  
修了式で挨拶する長谷川理事長



初日は冷たい強風が吹き荒れる中で日没後も団体訓練

ンター・鈴木麻美さん)、「自社の社員と心をひとつにして仕事に取り組むことはもちろん、NGP組合員会社の社員とも運命を共にできる本気の付き合いをしていきます」(エコテクノ(株)・平光淳一さん)と、それぞれがNGPマンとして決意を新たにしました。

## NGP協同組合・中四国支部、還暦祝いを開催

# 組合員同士の世代を超えた結束がさらに強まる

NGP協同組合・中四国支部は11月の支部会議に合わせ、(株)山陰UP販売の金山吉泰社長、(有)オートパーツ新居浜の中原脩次社長、(有)東和の春山貞洙社長、ウエイクパーツ(有)和氣商店の和氣達夫社長、(有)西川商会の西川正克社長の還暦祝いを開きました。

(株)福山セコの藤原庸正・中四国支部レクリエーション委員長が企画するゴルフコンペでは、オーナーは全員参加となりゲスト6人を含む26人が参加しました。還暦を迎えた先輩達は赤い帽子と赤いベストを喜んで身に

付け、ゴルフプレーを楽しみました。

懇親会ではクレストパーツの中村昌徳・中四国支部宴会隊長が指揮をとり、還暦の先輩達に赤いちゃんちゃんこと、似顔絵ポエムをプレゼントしました。また九州から(株)グッパ一福岡の山本善範社長と(株)エイ・ティ・



還暦祝いを受け満面の笑みを浮かべる組合員たち

エムの島野敬社長が飛び入り参加したこともあって大盛況となり、中四国支部の結束がさらに強まりました。

中四国支部は比較的若いオーナーが多い支部ですが、還暦の先輩達に年齢を感じさせないように、これからも盛り上げて参ります。

## 組合員情報変更

支部	会社名	変更内容	変更後	変更日
中四国	有限会社東和	FAX番号	0858-52-2995	25年11月11日

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合事務局

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F  
TEL:03-5475-1208 FAX:03-5475-1209  
http://www.ngp.gr.jp/

株式会社NGP

〒108-0074 東京都港区高輪3丁目25番33号 長田ビル2F  
TEL:03-5475-1200 FAX:03-5475-1201  
http://www.ngp.co.jp/